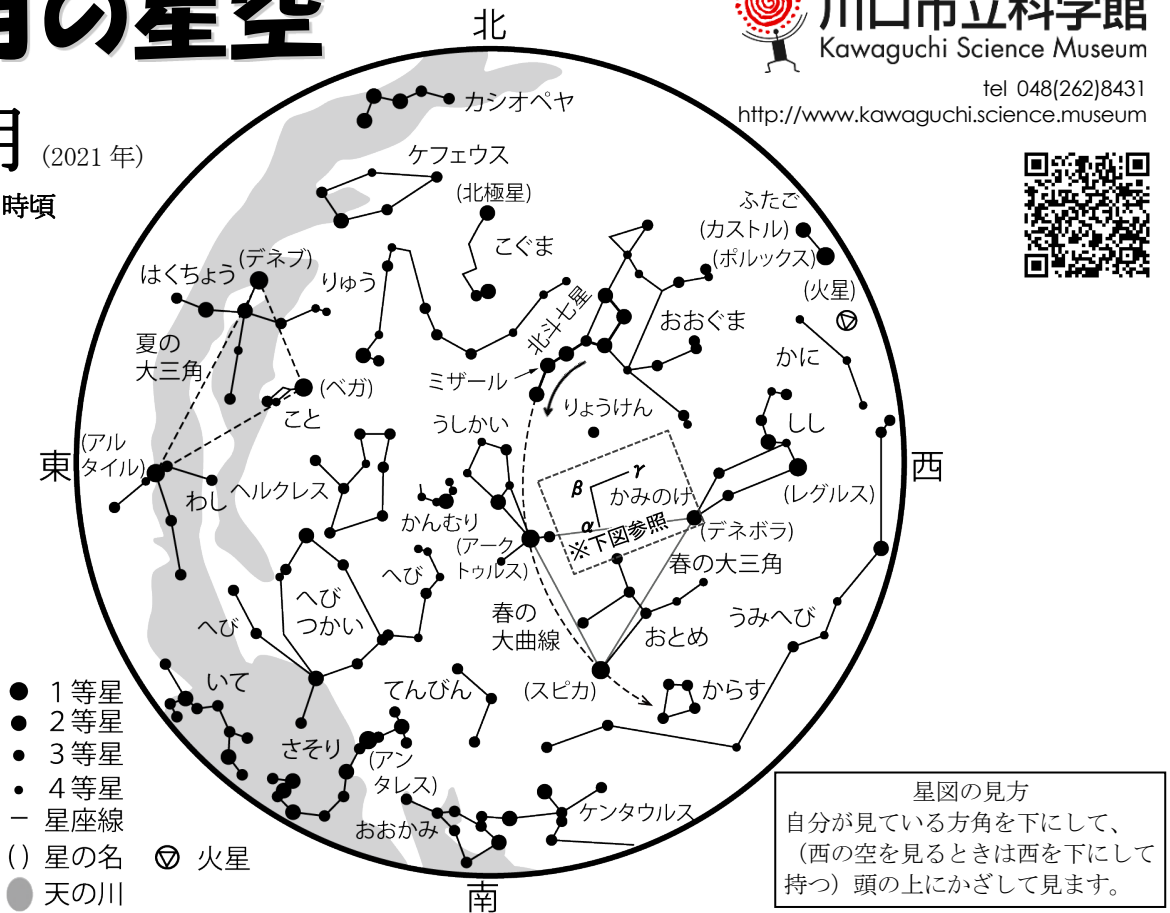


今月の星空

6月 (2021年)

中旬 21 時頃



月 齢 ●下弦 2日、●新月 10日、●上弦 18日、○満月 25日

惑星情報

金星 夕方 西 (おうし→ふたご→かに座 -4等) 火星 夜のはじめ頃 西 (ふたご→かに座 2等)

木星 夜中 南→南東 (みずがめ座 -2→-3等) 土星 夜中 南東 (やぎ座 0等)

★梅雨時に見られる明るい星

21日は1年のうちで太陽が最も高く昇る夏至。この頃は日が長い一方で、夜の時間が短い時期です。星空観察ができる時間の目安は午後8時頃から午前3時半頃となります。

さて、日没後の西の低空には「宵の明星」と呼ばれる金星が見えるようになりました。太陽、月に次いで明るく見える-4等級の明るさのため、日が暮れた黄昏時に一足先に見えてくる星です。これから12月頃までは夕方の西の空で輝きます。また、夜のはじめ頃、南の空を見上げると、オレンジ色に輝くうしかい座の1等星アークトゥルスが見つかります。この星は五月雨星(さみだればし)とも呼ばれていて、梅雨時に見られる代表的な星です。上の星図のとおり、その北側に見つかる北斗七星からアークトゥルス、おとめ座のスピカとつなぐと春の大曲線となります。

★隠れた(?)名星座「かみのけ座」から宇宙をのぞく

うしかい座としし座の間に、4等よりも暗い“微光星”が群れるように集まるかみのけ座。神話では、古代エジプトの王妃ベレニケの美しい髪とされ、星が群れる様子そのものが星座となった珍しい星座です。その中でも右図(上)Aの範囲は、地球から約270光年の距離に40個ほどのnh恒星が集まった散開星団Me1(メロッテ)111です。

また、右図(上)Bには1000個以上の銀河が集まったかみのけ座銀河団も存在します。右図(下)はその中心部の画像で、巨大な楕円銀河(NGC4874, 4889)の周りに多くの銀河が集まっていることがわかります。星空の中のほんの小さな範囲ですが、実は地球から約3億光年の彼方にある広大な宇宙空間(銀河団の広がり約2000万光年)を見ていることとなります。かみのけ座付近は、視界を遮るガスや塵の多い天の川から離れているため、より遠くの銀河や宇宙が観測できる「宇宙ののぞき窓」と呼ばれています。

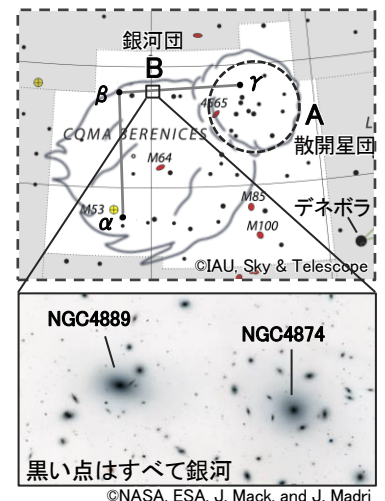


図 かみのけ座の星図(上)とハッブル宇宙望遠鏡が撮影したかみのけ座銀河団の中心部(下)